

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
0 建築物の環境品質								3.7
Q1 室内環境								4.1
1 音環境								3.0
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	0.50			
2 設備騒音対策		-	-	3.0	0.50			
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.50			
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音								
3.0		3.0	-	3.0	-			
2 温熱環境								4.5
2.1 室温制御								
1 室温		-	-	-	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	1.00	5.0	1.00			
4 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御								
2.2		-	-	-	-			
2.3 空調方式								
2.3		-	-	-	-			
3 光・視環境								3.7
3.1 昼光利用								
1 昼光率		3.0	0.30	4.0	0.50			
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		2.0	1.00	4.0	1.00			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度								
3.3		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御								
3.4		3.0	0.25	-	-			
4 空気環境								4.4
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質		5.0	1.00	5.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気								
1 換気量		3.0	0.40	3.6	0.38			
2 自然換気性能		3.0	0.50	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-			
Q2 サービス性能								3.6
1 機能性								4.0
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性		3.0	0.40	4.2	1.00			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.40	5.0	0.60			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観		4.0	0.30	3.0	0.40			
2 リフレッシュベース		3.0	-	3.0	0.50			
3 内装計画		3.0	-	-	-			
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計		4.0	0.30	-	-			
2 維持管理用機能の確保		4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性								3.3
2.1 耐震・免震								
1 耐震性		3.0	0.48	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.80	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数		3.6	0.33	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		5.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		4.0	0.09	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		5.0	0.15	-	-			
		2.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性			3.5	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		-	-	-	-	
2	給排水・衛生設備	各住戸には節水型の大便秘器(約48L/回)を使用する。またヘッダー工法を採用し、災害時の使用不可能部分の低減を図っている。	4.0	0.25	-	-	
3	電気設備		3.0	0.25	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.25	-	-	
5	通信・情報設備	設備室は階段室の下に設置し、地下への設置を避けている。また多様な通信手段を利用できるように空配管を設置している。	4.0	0.25	-	-	
3 対応性・更新性			3.1	0.29	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	1階は3.2m、2～5階は2.95mで計画する。	3.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.1	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	空調配管は外部空調配管とする。	4.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺のまちなみに調和するように、屋根を勾配屋根とし、外壁は倉をイメージする白を基調色とし、アクセントカラーとして土をイメージする黄色系とする。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	敷地内に集会場を計画する。各住戸の玄関廻りは中間領域であるアルコブを広く確保する。	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.7
1 建物の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準の省エネルギー性能等級4を取得する。	5.0	0.40	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネルを屋根に設置し、自然エネルギーを活用する。	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		日本住宅性能表示基準の省エネルギー性能等級4を取得する。太陽光パネルを屋根に設置し、自然エネルギーを活用する。各住戸に潜熱回収型の給湯器を設置する。	5.0	0.40	-	-	5.0
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)			5.0	-	-	-	
集合住宅の評価			5.0	-	-	-	
4 効率的運用			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	水栓は節水コマとし、便器は節水型便器とする。	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63	-	-	3.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生加熱アスファルト(その他)、再生骨材の路盤材の利用、製材など	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	S工法を採用する。壁は二重壁とし、配管配線を躯体および仕上げに打込まない計画とする。	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22	-	-	4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		5.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	断熱材はノンフロン系の断熱材を使用する。	5.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		日本住宅性能表示基準の省エネルギー性能等級4を取得する。太陽光パネルを屋根に設置し、自然エネルギーを活用する。各住戸に潜熱回収型の給湯器を設置する。	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	流体数値シミュレーションを用いて温熱環境の解析を行う。	4.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水排水設備として浸透枳および浸透トレンチを設置する。	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場、駐輪場ともに1台/戸を確保する。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害・砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	